

令和5年度第3回帯広市地域密着型サービス運営委員会議事概要

日 時 令和5年2月28日（火）午後7時00分～午後8時10分

開催方法 ZoomによるWeb会議

出席委員名 井出委員、佐藤委員、杉野委員、鈴木委員、但木委員、野尻委員、長谷川委員（五十音順）
事務局

地域福祉課 永田課長、宮腰課長補佐、中山課長補佐、西端係長、北野主査、稲場主任、
小沢主任、鈴江主任補、黒沼主任補

介護高齢福祉課 佐藤課長、野原主幹、高橋課長補佐

1 会議結果

1) 報告事項1 地域密着型（介護予防）サービス事業所の指定状況について

資料報告事項1に基づき、令和5年2月1日現在の指定状況について報告した。

2) 報告事項2 地域密着型サービス事業所で発生した高齢者虐待について

資料報告事項2に基づき、行政指導内容と今後の流れについて報告した。

3) 協議事項1 第八期、第九期帯広市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画における地域密着型サービスの整備について

資料協議事項1に基づき、第八期、第九期帯広市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画における地域密着型サービスの整備について、これまでの経過と第9期計画における今後の対応方針（案）を説明し、委員より現在の介護業界の状況を踏まえた意見を得た。

2 主な質疑、意見等の概要

協議事項1

□高齢者人口の推計は2040年、2045年がピークと言われているが、帯広市の高齢者人口についても2040年をピークとして考えているか？（委員）

→帯広市も、全国的な傾向と同じく推移し、2040年をピークとして考えている（事務局）

□現在の、特別養護老人ホームの待機者は何名ぐらいか？また、その中で、すぐにでも入所を希望している人はどれぐらいいるか？（委員）

→令和4年6月末現在の待機者は552人となっている。中には、重複して申し込んでいる方や、すぐに入居を希望していない方もいる。(事務局)

□高齢者人口のピークや高齢者虐待の改善策の話もあったが、現場の人員不足や疲弊度は今がピークなのではないかと現場レベルでは感じている。3年続いたコロナの対応が変わることやICT化などは明るい材料になると思うが、今までの古き良き介護についてはかなり限界を迎えていると感じている。数値やデータで図れる部分だけではなく、足りているようで足りていないサービス、行き届いていないサービス、担い手が先細りしている状況がある。

対人援助サービスが根底なので懇切丁寧な対応は大事にしながらも、効率化を図って、今までとは違う一手をそれぞれの現場や施策の中で打っていかねば、なり手がいない中で、よくないことが起きやすくなってしまう。箱を作ってもその後立ち行かないという状況もあり得ることであり、難しい状況だと感じている。(委員)

□介護の人材不足はあるが、質の問題もあると感じている。コロナ対策でいえば、人や事業所によって対応が異なっている状況であった。クラスターを何度もおこしている事業所もあり、人の確保だけではなく介護職員の質も重要視する必要があるのではないかと。(委員)

□職員の働く環境、人の確保、職員の質の向上は事業所として喫緊の課題である。待機者の問題や施設の意向調査、働き手の問題も踏まえて、施設が必要となった際の圏域や場所の選定については、慎重に行っていただきたい。施設を整備した途端に別の事業所が廃止になってしまおうと本末転倒かと思う。意向調査の結果やさまざまな団体の意見などを聞きながら慎重に計画を策定していただきたい(委員)

3 その他

次回の開催について、地域包括支援センター運営協議会と合わせ、5月下旬に定例開催を予定している。会長と日程調整し、各委員に通知する。

以上 午後8時10分 閉会